ECHO®

エコーカルチ

取 扱 説 明 書

型 式

TC210

（社）日本陸用内燃機関協会
小形汎用エンジン
排出ガス自主規制適合証

このたびは、当社製品をお買い上げ頂き、厚くお礼申し上げます。

⚠ 警告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

目　次

安全にご使用いただくために 3

1 付属品の確認 6

2 各部の名称と警告表示ラベル 7

3 作業の準備 8
3-1. 組み立て 8
3-2. 燃料の準備 9

4 エンジンの始動・停止 10
4-1. 冷えたエンジンの始動 11
4-2. 暖まっているエンジンの始動 11
4-3. エンジンの停止 12

5 耕耘作業 13

6 点検・整備 15
6-1. 点検・整備の目安 15
6-2. 作業後の点検・整備 15
6-3. ロータの組み替え 16
6-4. ２５時間毎点検・整備 16

7 保管 19

8 故障対策 20
8-1. 故障診断表 20
8-2. 製品の廃棄 20

9 仕様 21

安全にご使用いただくために

重要なお知らせ

⚠ 警告

製品をご使用になる前に、取扱説明書を必ずお読みください

取扱説明書



- **この取扱説明書には、製品の組み立てや操作、点検・整備に必要な事項が書かれているので、よく読んで理解してください。**
- **この取扱説明書は、いつでも読めるように保管してください。**
- **製品の改良のため、予告なしに内容を変更することがあります。**
- **使用している図は説明をわかりやすくするため、現品と異なる場合があります。**
- **損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から購入してください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用目的以外の使用禁止

- **この製品は耕耘作業や中耕作業に使用してください。水中の耕耘作業をしないでください。**
- **本書に記載されている用途以外に使用しないでください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の改造禁止

- **製品を改造しないでください。**

事故や重傷を負う原因となります。

点検・整備をしていない製品の使用禁止

- **定期的に点検・整備をしてください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の貸与、譲渡

- **製品を貸すとき、譲るときは、この取扱説明書も渡してください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用者



- **体調不良、疲労している、酒類を飲んでいる、薬物を服用しているなど、体調が万全でないときは使用しないでください。**
- **次のような人は使用しないでください。**
  - **妊娠している人**
  - **16 歳未満の人**
  - **取扱説明書の内容を理解していない人**

事故や重傷を負う原因となります。

レイノー現象の症状に注意

- **指に不快感、赤み、腫れがあり、白くなったり感覚がなくなったことのある人は、製品を使用する前に医師に相談してください。**

指にレイノー現象と呼ばれる症状が現れることがあります。

保証書

- **使用目的以外の作業による製品の故障、あるいは改造による故障の場合は、メーカー保証の対象外になりますのでご注意ください。詳しくは保証書をお読みください。**

安全にご使用いただくために

⚠ 警告

健康管理

○ 休憩をとりながら余裕を持って作業をしてください。
○ 寒いときは手足や身体の保温を心がけ、休憩時に暖をとってください。
○ 厚生労働省の通達は次のとおりです。

- **1 日の使用時間：2 時間以内**
- **1 回の連続作業時間：30 分以内**
- **1 回の連続作業後の休止時間：5 分以上**

健康障害を受ける恐れがあります。

服装の点検

○ 身体に合った作業衣を着用し、次のことを守ってください。

- **上着（長袖）のボタン、ファスナを完全にし、袖口をきちんと閉め、すそはズボンに入れる**
- **ズボンはすそ閉まりの良い長ズボンを着用し、すそは作業靴の上部にはさみ込む**
- **ネクタイや装飾品は着用しない**
- **髪の毛は肩より上でまとめる**

事故や重傷を負う原因となります。

保護具の着用

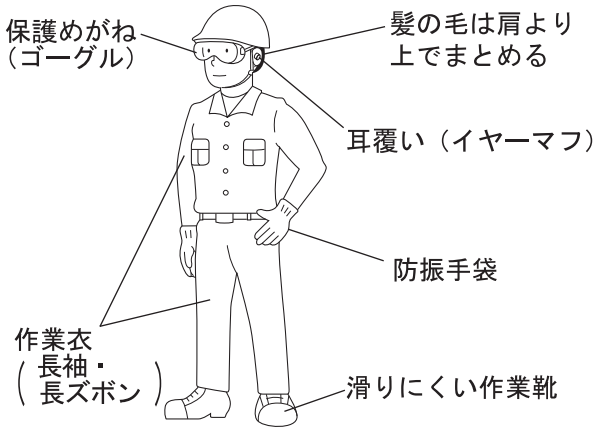
○ 下記の保護具を着用してください。

- **耳覆い (イヤーマフ）や耳栓：聴力の保護**
- **保護めがね (ゴーグル) ：目の保護**
- **防振手袋：寒さや振動から手を保護**
- **滑りにくい丈夫な作業靴：足の保護**

視覚障害、聴覚障害、重傷などを負う原因となります。

○ 必要に応じて下記の保護具をご使用ください。

- **防じんマスク：呼吸器の保護**



製品の使用環境・作業環境

○ 次のような場合は製品を使用しないでください。

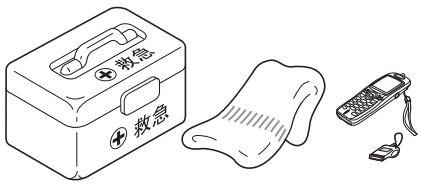
- **降雨時や落雷の恐れがあるとき**
- **急傾斜地や足元が不安定で滑りやすい場所**
- **夜間や視界が悪い場所**

転落や滑落、誤った操作などにより事故や重傷を負う原因となります。

事故やケガへの備え

○ 事故やケガに備え、下記の用具を用意してください。

- **救急箱（応急手当用）**
- **タオルや手ぬぐい（止血用）**
- **呼子や携帯電話（外部との連絡用）**



応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化する恐れがあります。

発火・発煙・火災への備え

○ 発火・発煙・火災に備え、消火器やシャベルを用意してください。
○ エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、身体から製品を離し、身体の安全を確保してください。
○ 周囲に類焼しないようにシャベルで砂を掛けるか、消火器で消火してください。

あわてて対処しようとすると、火災やその他の傷害の拡大につながります。

安全にご使用いただくために

警告表示について

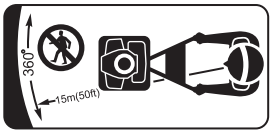
⚠ 危険	⚠ 警告	⚠ 注意
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。	その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

その他の表示について

	丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものがすべて禁止されていることを表します。

重要
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている製品の使用、点検、保守、保管に関する重要な注意事項です。

シンボルマークについて

シンボルマーク	意味	シンボルマーク	意味
	ご使用前に取扱説明書をよく読み、正しく作業すること		電気ショックに注意すること
	作業中は保護具を必ず着用すること		高温部に注意すること
	通気の悪い場所で製品を使用しないこと		混合燃料を使用すること
	火災に注意すること		手足を保護すること
	スタンドを下げて使用しないこと		回転するロータから離れること
	輸送するときはハンドルを持たないこと		
		作業中は 15 ㎜ 以内に人、動物を近付けないこと	

1. 付属品の確認

○欠品や破損などがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

本体



移動ハンドル



クリップ
（2個）

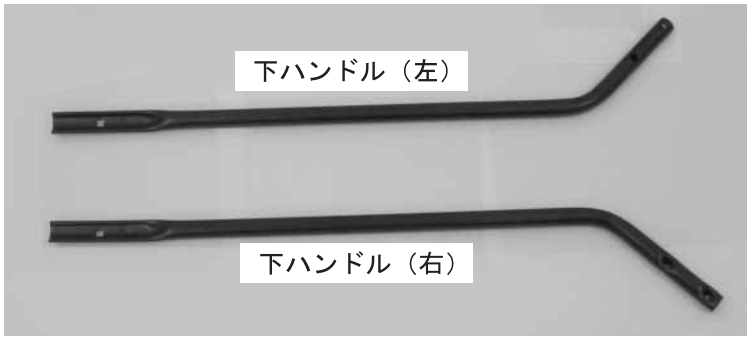


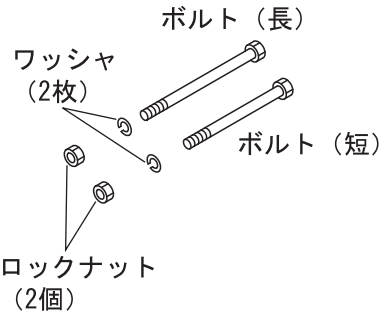
上ハンドル



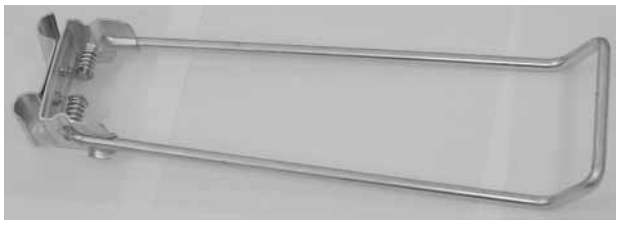
アイプレート（2枚）



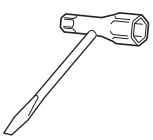




スタンド



ソケットレンチ10×19



スパナ（2個）

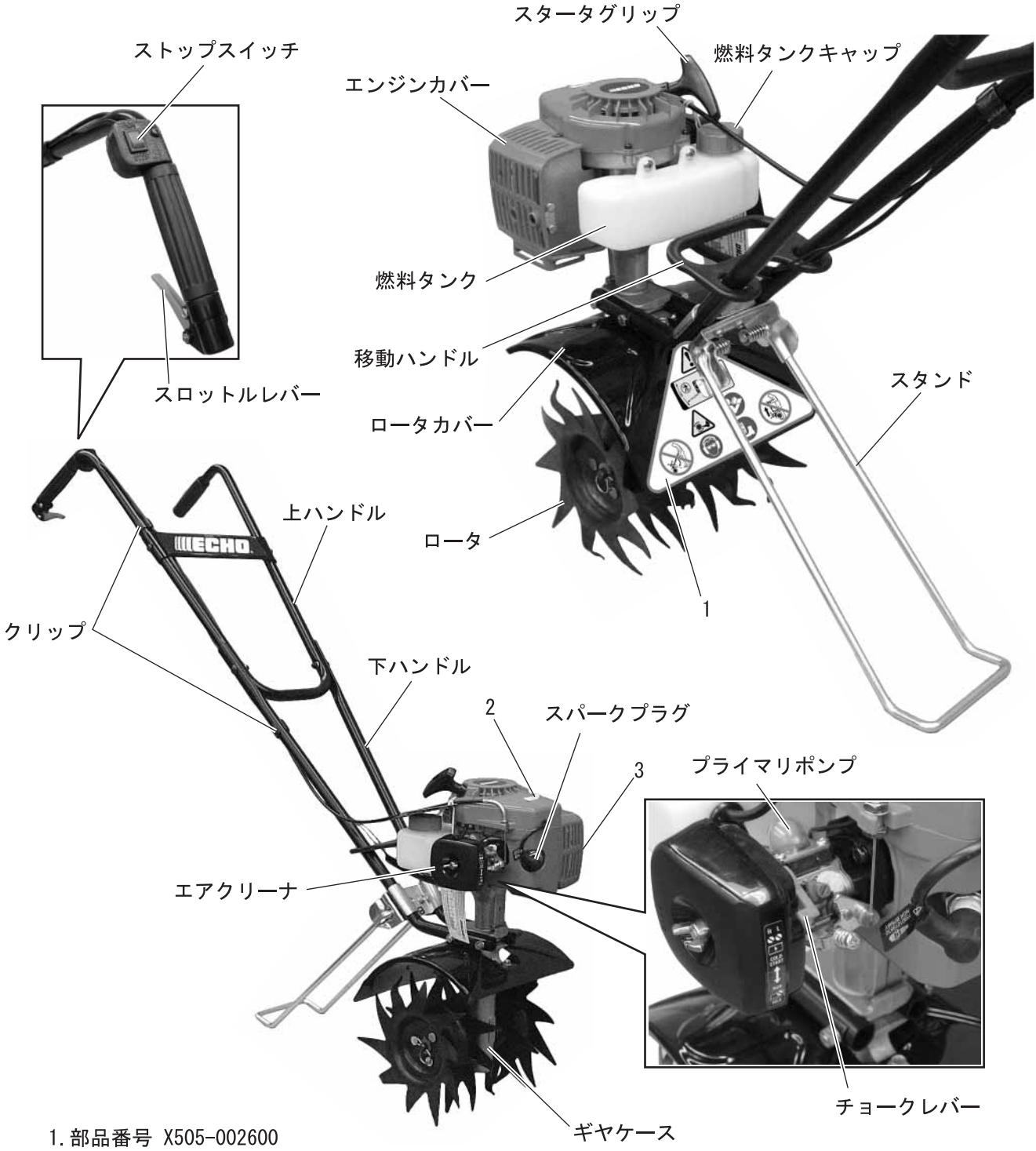


取扱
説明書

保証書

2. 各部の名称と警告表示ラベル

○ 本書で説明している製品の各部の名称および警告表示ラベルを示しています。ご使用前に各部の名称およびラベルの意味を理解してください。
○ ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店からラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。



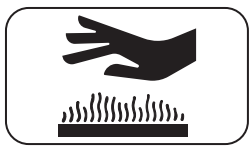
1. 部品番号 X505-002600



2. 部品番号 890016-06411



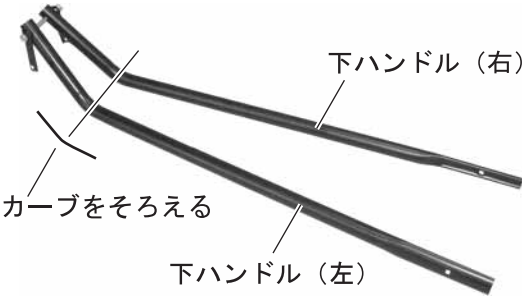
3. 部品番号 X505-002310



3. 作業の準備

3-1. 組み立て

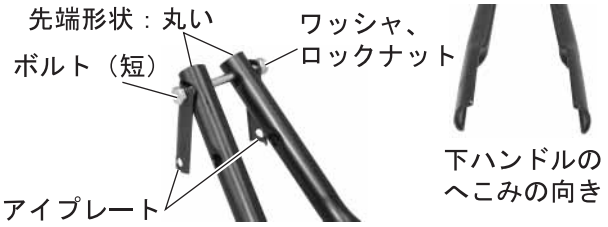
■ハンドルとスタンドの組み立て



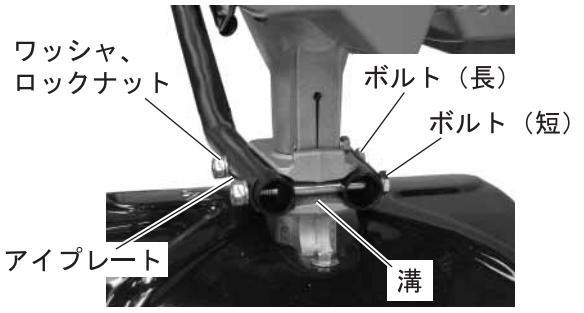
1. 製品を平坦な地面に置いてください。

重要

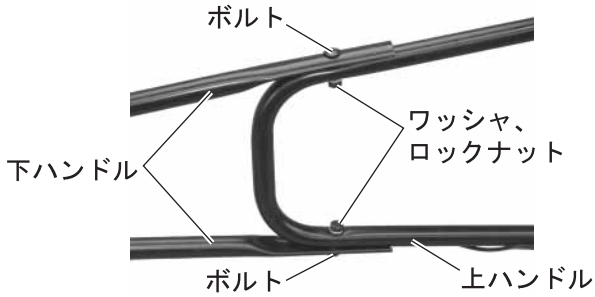
❍ 下ハンドル（左右）の先端カーブをそろえてください。



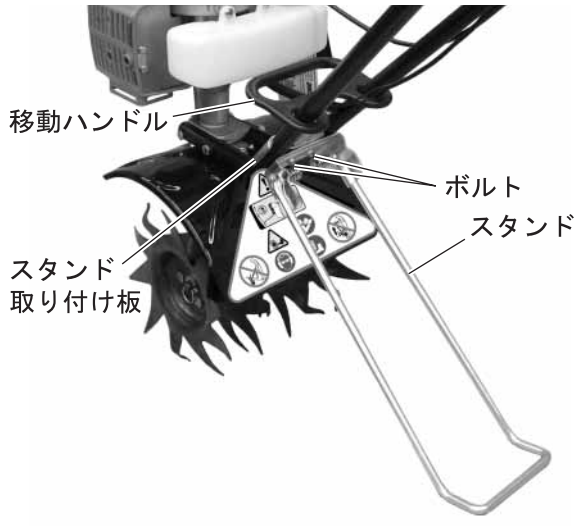
2. 下ハンドル（左右）先端（先端形状：丸い）の穴にアイプレート、ボルト（短）、ワッシャ、ロックナットを仮止めしてください。



3. 溝に下ハンドルを合わせてください。
4. 下ハンドルをボルト（長）、ワッシャ、ロックナットで仮止めしてください。
5. 移動ハンドルを下ハンドルに通し、エンジン側まで移動してください。



6. 上ハンドルを用意し、ボルト、ワッシャ、ロックナット（各 2 個）を取り外してください。
7. 上ハンドルを下ハンドルの間に置き、取り付け穴を合わせてください。
8. 6. で取り外したボルト、ワッシャ、ロックナットで再度締め付けてください。
9. 下ハンドルのボルト（長）・（短）をしっかりとを締め付けてください。次に、上ハンドルのボルトをしっかり締め付けてください。



10. スロットルケーブルとストップスイッチコードを上下ハンドルにクリップで取り付けてください。
11. スタンドとスタンド取り付け板に取り付けてあるボルトを外してください。
12. スタンド取り付け板とスタンドを下ハンドルにはさみ、11. で取り外したボルトで再度しっかり締め付けてください。

重要

❍ スタンドを下ろしたとき、地面に接することを確認してください。

3. 作業の準備

3-2. 燃料の準備

⚠ 危険

- **燃料はエンジンを停止し、エンジンが冷えてから補給してください。**
- **補給中にタバコを吸ったり、火気を近づけたりしないでください。**

燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負うことになります。



⚠ 警告

- **燃料補給前に製品および補給用タンクを地面に数分間置くなどして、帯電している静電気を逃がしてください。作業者自身も手のひらを地面や金属に押し当てて、静電気を逃がしてください。**
- **燃料補給時に金属製の漏斗（ろうと）を使用しないでください。**

静電気が燃料に放電して、火災の原因となります。

- **燃料は風通しの良い場所で、製品と補給用タンクを地面に置いて補給してください。トラックの荷台の上などで補給しないでください。**
- **燃料タンクには外気との間に圧力差が生じています。燃料タンクキャップはゆっくりと開けてください。**
- **燃料タンク口元まで入れずに、規定レベル以下に補給してください。**
- **燃料が少しでもこぼれたら必ず拭き取ってください。ただし湿度が低いときは、乾いた布で拭くと静電気を帯びやすいので、水を湿らせた布で拭き取るようにしてください。**
- **燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れやにじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**
- **補給用タンクは火気のない日陰に置いてください。**

燃料に引火して火災を起こしたり、火傷の原因となります。

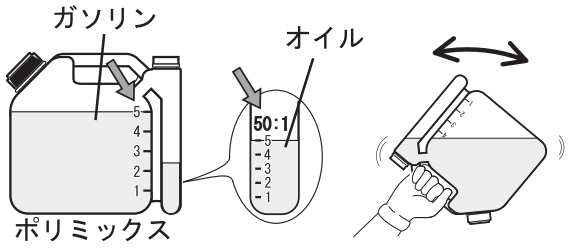
- **余った燃料は鋼板製のガソリン携行缶で保管してください。**
- **燃料を運搬する際は鋼板製のガソリン携行缶を使用してください。**

ポリ容器での運搬や保管は法律で禁止されており、火災の原因となります。

重要

- **この製品に使用する燃料は、レギュラーガソリンと２サイクルエンジンオイルを混合した「混合燃料」です。アルコール混入燃料はゴム製部品の劣化を早めるので、使用しないでください。**
- **混合燃料は劣化しやすいので、使用する分量だけ混合してください。**
- **余った燃料の保管期間は 1ヶ月程度としてください。**

■燃料の混合



ポリミックス（別売品）を使用して
よく混合してください

ＪＡＳＯ 性能分類 ＦＣ または ＦＤ グレードのオイルを 50:1 の比率でよく混合してください。

ガソリンと２サイクルエンジンオイルとの混合比

ガソリン (L)	２サイクルエンジンオイル (mL)
2	40
4	80
5	100

＊ **指定以外のオイルや混合比は、エンジン不調の原因となります。**

■燃料の補給



- **燃料タンクのキャップを開け、手動式の燃料補給ポンプで混合燃料を、規定レベルまで入れてください。**
- **補給後は、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。**

4. エンジンの始動・停止

⚠ 警告

❍ **エンジンを始動するときは、次のことを守ってください。**

- **燃料を補給した場所から 3 m 以上移動する**
- **製品を平坦で通気の良い、可燃物のない場所に置く**
- **燃料が漏れていないか確認する**
- **ボルトやナット類にゆるみがないことを確認する**
- **周囲は広くとり、人や動物を近づけない**
- **スロットルレバーが低速位置にあることを確認する**
- **製品をしっかりと押さえて始動する**

火災、事故や重傷を負う原因となります。

❍ **エンジンが始動したら、異常振動・異常音が発生していないか確認してください。異常振動・異常音がある場合は直ちにエンジンを停止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

部品の脱落、飛散などの事故により、重傷を負う原因となります。

❍ **エンジンの排気ガスには、有毒なガスが含まれています。屋内など通気の悪い場所で製品を運転しないでください。**

排気ガスによる中毒事故の原因となります。



❍ **製品の運転中および停止後しばらくの間は、シリンダカバー、マフラなどの高温部に触れないでください。**

高温部に触れると火傷します。



❍ **製品の運転中、スパークプラグ、プラグコードなどの高電圧部に触れないでください。**

運転中に高電圧部に触れると感電します。



❍ **車で運搬するときは燃料タンクから燃料を抜いて、製品が動かないように固定してください。**

燃料を入れたまま車で移動すると、火災の原因となります。

⚠ 注意

❍ **エンジンの始動時、スロットルレバーが低速の位置にあってもロータが回転するときは、キャブレタを調整してください。(18 ページの「キャブレタの調整」を参照)**

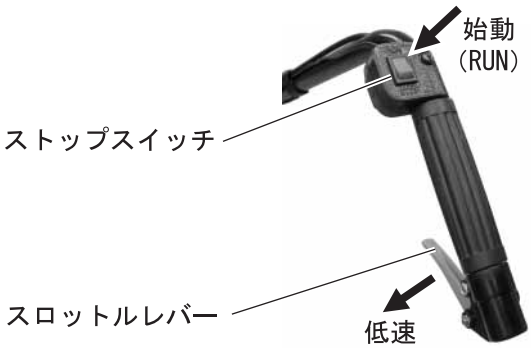
回転するロータでケガをする恐れがあります。

重要

❍ スタータグリップは、まず軽く引き出し更に素早く引いてください。引きヒモの 2/3 以上は引き出さないでください。
❍ スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。

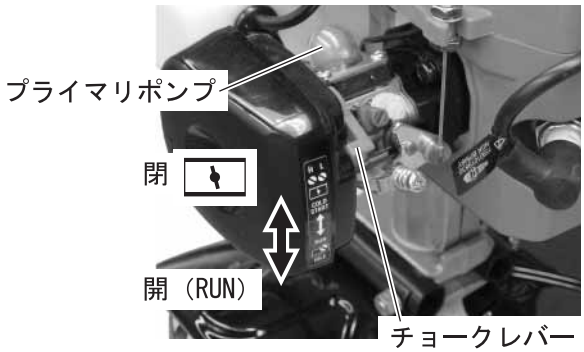
4. エンジンの始動・停止

4-1. 冷えたエンジンの始動

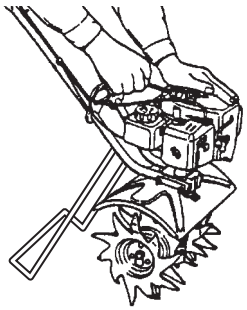


（長期保管後に使用するときは、スパークプラグキャップを接続してください。）

1. 製品を平坦な地面に置いてください。
2. ストップスイッチを「始動」（RUN）の位置にしてください。
3. スロットルレバーを低速の位置にしてください。

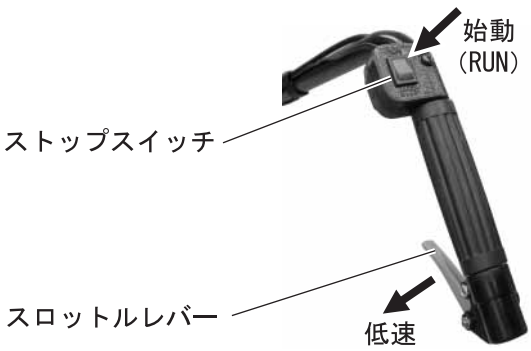


4. チョークレバーを「閉」（⊏）の位置にしてください。
5. プライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプを押す・離すの操作をくり返してください。（目安 5 ～ 10 回）



6. 周囲の安全を確認して、図のように製品をしっかり押さえ、スタータグリップを数回引いてください。
7. 爆発音がし、すぐに止まったときは、チョークレバーを「開」（RUN）の位置にして、更にスタータグリップを引き始動させてください。
8. エンジンが止まらなかったら、チョークレバーを徐々に「開」（RUN）の位置に戻してください。
9. エンジンが始動したら、2 ～ 3 分間、アイドリング（低速運転）で暖機運転をしてください。

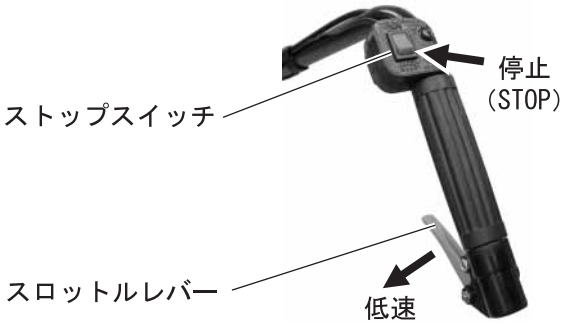
4-2. 暖まっているエンジンの始動



1. ストップスイッチを始動（RUN）の位置にしてください。
2. スロットルレバーを低速の位置にしてください。
3. チョークレバーが「開」（RUN）の位置にあることを確認してください。
4. 燃料がプライマリポンプ内に見えないときは、プライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプを押す・離すの操作をくり返してください。（目安 5 ～ 10 回）
5. スタータグリップを引いてエンジンを始動させてください。

4. エンジンの始動・停止

4-3. エンジンの停止



1. スロットルレバーを低速の位置にし、エンジンをアイドリング（低速運転）状態にしてください。
2. ストップスイッチを停止（STOP）の位置にしてください。
3. 緊急の場合は、直ちにストップスイッチでエンジンを停止してください。

＊ エンジンが停止しないときは、チョークレバー (11ページの「冷えたエンジンの始動」を参照) を「閉」（□）の位置にしてください。エンジンは失速し停止します。（応急停止）
ストップスイッチでエンジンが停止しなかった場合は、製品を再び使用する前に、お買い求めの販売店にストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

5. 耕耘作業

⚠ 危険

❍ **ロータカバーをずらしたり、取り外したりしないでください。**

ロータからの飛散物による事故や重傷を負うことになります。

❍ **製品の中心から半径 15 m の範囲は危険区域です。作業中は次のことを守ってください。**

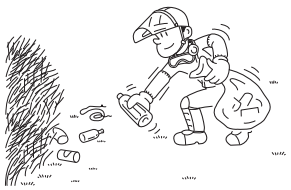
- **危険区域に人や動物を入らせない**
- **危険区域に人や動物が入ったときは、エンジンを停止し、ロータを停止させる**
- **作業者に近づくときは、危険区域の外から小枝を投げるなどの合図をして作業者に知らせ、エンジンとロータの停止を確認する**
- **二人以上で作業するときは、お互いに合図のしかたを決めて 15 m 以上離れる**

ロータからの飛散物やロータとの接触により、失明や死亡事故を起こすことになります。

⚠ 警告

❍ **作業前に、作業する場所にあるロータで跳ね飛ばしそうな小石や空き缶、刈刃周辺にからまりそうなヒモや針金などは取り除いてください。**

異物を跳ね飛ばしたり、製品にからみついた針金などが跳ね返ったりして、事故や重傷を負う原因となります。



❍ **耕耘作業では次のことを守ってください。**

- **ロータが岩、立木、杭などの障害物に当たったときは、直ちにエンジンを停止し、ロータの停止を確認してから、ロータとロータカバーの損傷を点検する**
- **ヒビの入ったロータは使用しない**
- **ロータカバーが破損したら交換する**
- **足元まで耕さずに、常にロータから 50 cm 以上離して作業する**
- **作業中やロータが回転しているときは、ハンドルから両手を離さない**

事故や重傷を負う原因となります。

❍ **作業中、マフラ周辺に草やゴミなどが付着したときは、速やかに取り除いてください。**

火災の原因となります。

❍ **次のような移動時はエンジンを停止し、ロータが停止してから、マフラを身体から離してください。**

- **作業場へ移動するとき**
- **作業中に他の場所へ移動するとき**
- **作業場から帰るとき**

火傷や重傷を負う原因となります。

❍ **車で運搬するときは燃料タンクから燃料を抜いて、製品が動かないように固定してください。**

燃料を入れたまま車で移動すると、火災の原因となります。

重要

❍ 水中で作業をしないでください。内部腐食の原因となります。また、水洗いも避けてください。
❍ 耕耘作業をするときは、エンジンを高速回転で運転してください。
❍ 耕耘作業以外は、高速回転で運転しないでください。

5. 耕耘作業



1. スタンドを上げてください。
2. エンジン始動後、スロットルレバーを操作すると、エンジンの回転速度が上がり、ロータが回り始めます。作業に合わせて、回転速度を調節してください。
3. ロータが地面に触れると前方に進みます。

   ＊ ほ場条件により製品がはねることがあります。
4. 耕耘深さは約 15 ～ 20 ㎝（最大）、中耕の深さは 約 3 ～ 8 ㎝（最大）になるようにしてください。
5. 製品を移動するときは、エンジンを停止しロータの回転が止まってから、移動ハンドルと上ハンドルを持って移動してください。

6. 点検・整備

⚠ 警告

❍ **製品の点検・整備をするときは、エンジンを停止し、エンジンが冷えてからスパークプラグキャップを外してください。**

火傷や、突然の始動により事故の原因となります。

重要

❍ お買い求めいただいた製品を安全にご使用いただくために、定期的に点検・整備をしてください。
❍ 点検・整備には専門的な知識が必要です。ご自分で点検・整備や故障対策ができない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

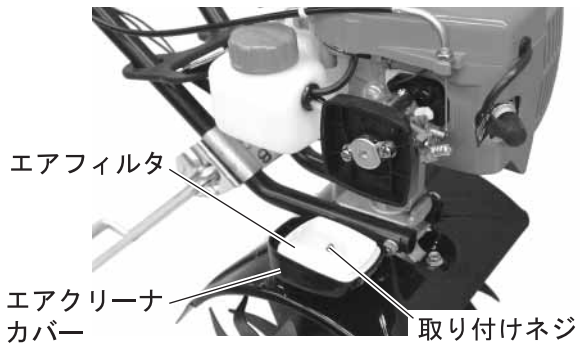
6-1. 点検・整備の目安

点検・整備項目	作業前または作業後	作業 25 時間毎	作業 100 時間毎	参照ページ
燃料パイプ、燃料系グロメット	○		●	9
燃料タンクキャップ	○		●	9
ロータ	○			13
エアフィルタ	○		●	15
スパークプラグ		○	●	16
燃料フィルタ		○	●	17
燃料タンクの清掃		○		17
燃料の残量、劣化	○			17
キャブレタの調整		○		18
冷却風通路・シリンダフィンの清掃		○		18
マフラ		○		18
ギヤケースのグリース注油		○		18
ボルト、ナット	○			−
エンジン各部の増し締め			●	−
クラッチ			●	−

○：ご自分で点検・整備してください。
●：製品の性能維持のため、お買い求めの販売店に定期的な点検を依頼し必要に応じ交換してください。

6-2. 作業後の点検・整備

■エアフィルタの清掃



1. チョークレバーを「閉」（⛐）の位置にしてから、取り付けネジをゆるめ、エアクリーナカバーを外してください。
2. エアフィルタを外してください。
3. 汚れをブラシで落としてください。
4. エアフィルタを元の位置に取り付けてください。
5. カバーを取り付け、取り付けネジを締めてください。

6-3. ロータの組み替え

⚠ 警告

❍ ロータを扱うときは次のことを確認してください。

- **厚手の手袋を着用していること**
- **エンジンが停止して、ロータの回転が止まっていること**
- **ストップスイッチが停止位置にあること**
- **燃料タンクキャップがしっかり締まっていること**

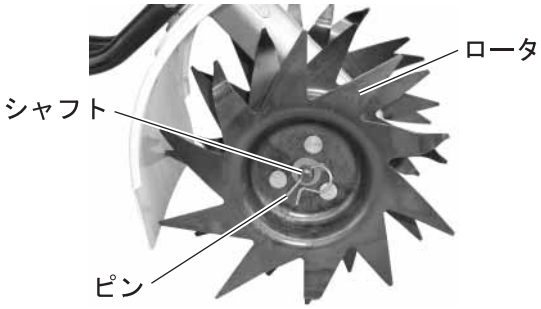
❍ ロータや固定金具類は純正部品を使用してください。

ロータの損傷や飛散により、事故や重傷を負う原因となります。

⚠ 注意

❍ 連続運転直後は、ギヤケースが熱くなっているので、触れないでください。

火傷の恐れがあります。



1. **ピンを取り外し、ロータをシャフトから外してください。**
2. **ギヤケース、ロータからゴミなどを取り除いてください。**



耕耘深さ 約3～8 cm の場合

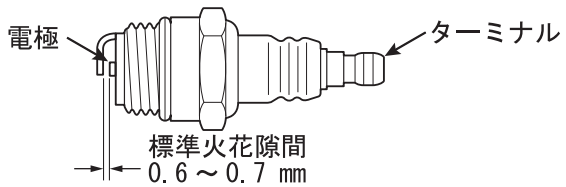


耕耘深さ 約15～20 cm の場合

3. **耕耘深さに応じ、左図を参考にロータの向きを変え、再度組み付けてください。**

6-4. ２５時間毎点検・整備

■スパークプラグの点検

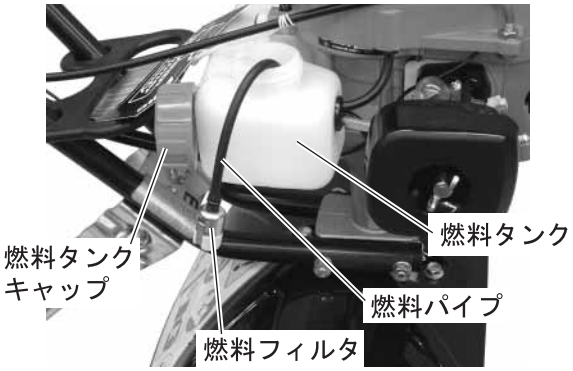


1. **付属のソケットレンチ (19 ㎜) でスパークプラグを外してください。**
2. **スパークプラグの標準火花隙間は 0.6 ～ 0.7 ㎜ です。標準火花隙間より広すぎたり狭すぎる場合は調整してください。電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは清掃してください。電極やターミナルが摩耗しているときや、ガイシに亀裂がある場合は指定のスパークプラグと交換してください。**
3. **スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締め付けてください。**
   参考：締め付けトルクは 15 ～ 17 N・m（150 ～ 170 kgf・cm）です。

＊ **スパークプラグの火花を確認する発火テストは、お買い求めの販売店に依頼してください。**

6. 点検・整備

■燃料タンク、燃料フィルタの清掃



1. 燃料タンクキャップを外してください。
2. 針金などを使用して、燃料パイプに傷を付けないように燃料フィルタを燃料タンクの給油口から取り出してください。
3. 燃料が劣化しているときや、水分やゴミが混入しているときは、燃料を交換し、燃料タンク内や燃料フィルタ、燃料パイプを洗浄してください。
4. 燃料フィルタ部分が黒く硬くなっているときは、交換してください。
5. 燃料フィルタを燃料タンクに戻して、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。
6. 燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。

■ギヤケースのグリース注油

⚠ 警告

❍ **ロータを扱うときは次のことを確認してください。**

- 厚手の手袋を着用していること
- エンジンが停止して、ロータの回転が止まっていること
- ストップスイッチが停止位置にあること
- 燃料タンクキャップがしっかり締まっていること

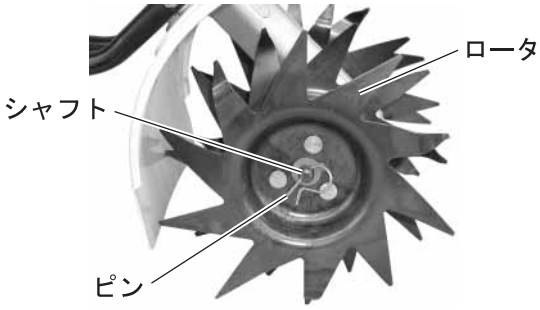
❍ **ロータや固定金具類は純正部品を使用してください。**

ロータの損傷や飛散により、事故や重傷を負う原因となります。

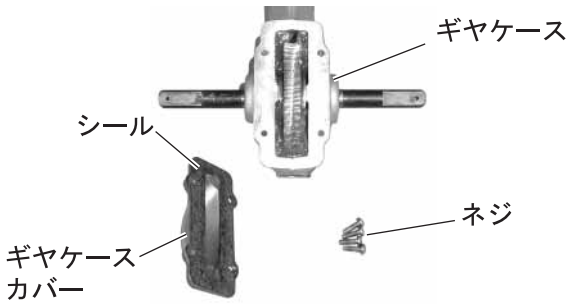
⚠ 注意

❍ **連続運転直後は、ギヤケースが熱くなっているので、触れないでください。**

火傷の恐れがあります。



1. ピンを取り外し、ロータをシャフトから外してください。
2. ギヤケース、ロータからゴミなどを取り除いてください。



3. ネジ（4 本）を取り外して、ギヤケースカバーを外してください。
   ＊ ギヤケースカバーを外すとき、シールを破らないよう注意してください。
4. ギヤケース上面まで純正グリースを補給してください。

重要

❍ グリースの入れすぎに注意してください。

6. 点検・整備

■キャブレタの調整

重要

- ❍ 工場出荷時にキャブレタはエンジンの性能を最もよく引き出せるように設定されていますが、次のような場合にはキャブレタの異常も考えられますので、キャブレタを調整してください。
  - ・ エンジンが始動しない
  - ・ エンジンが停止する
  - ・ アイドリング（低速運転）時もロータが回っている
- ❍ 調整ネジは締めすぎないでください。強く締めすぎるとキャブレタが破損します。



アイドル調整ネジ

調整前に、エアクリーナを清掃、または交換して、エンジンを数分間運転してください。

アイドル調整ネジ

1. アイドリング（低速運転）の回転数は、キャブレタ本体のアイドル調整ネジを回して調整してください。
2. アイドル調整ネジを右に回してロータが回り始めるところから、左へ 1/4 回転程度戻してください。

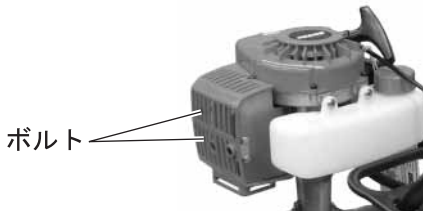
＊ 調整しても回転不調の場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。

■冷却風通路の清掃



1. シリンダフィンの間のゴミと汚れを取り除いてください。
2. 冷却風の吸い込み口の周りに付いた、ゴミなどを取り除いてください。

■マフラの点検



- ・ マフラの締め付けボルトにゆるみがないか確認してください。ゆるみがある場合は、増し締めしてください。
- ・ マフラがカーボンなどで汚れている場合は、清掃してください。

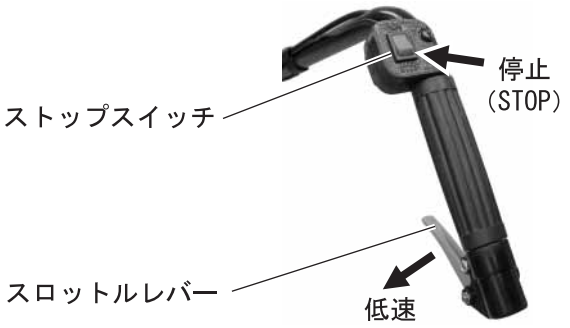
7. 保管

⚠ 警告

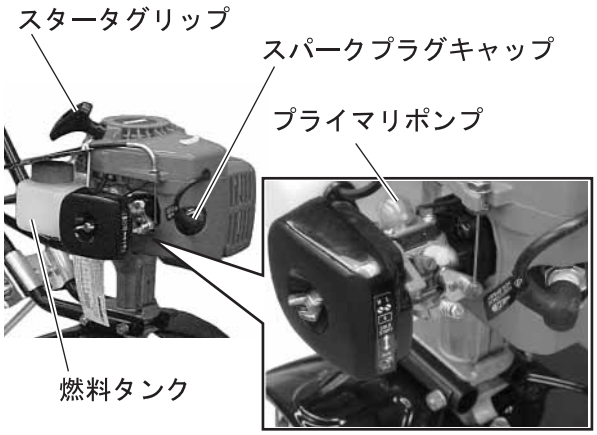
❍ **燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のあるそばに保管しないでください。**
火災の原因となります。



❍ **製品を長期間（30 日以上）にわたって保管する場合は、下記の手順で整備をしてください。**



1. 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
2. プライマリポンプを押す・離すの操作を数回くり返して、プライマリポンプの燃料を抜き取ってください。
3. エンジンを始動し、自然に停止するまで低速で運転してください。
4. ストップスイッチを停止（STOP）位置にしてください。
5. 製品が十分に冷えてから、外側に付いたグリース、オイル、ホコリ、ゴミなどをきれいに拭き取ってください。
6. 本書に定められた定期的な点検をしてください。
7. スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。



8. スパークプラグを外し、適量（10 mL 程度）の２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。
9. スパークプラグの取り付け穴の上にきれいな布を掛けてください。
10. スタータグリップを数回引いて、エンジンオイルをシリンダ内に行き渡らせてください。
11. スタータグリップをゆっくり引き、ピストンを最も上の位置にしてください。
12. スパークプラグを取り付けてください。（スパークプラグキャップは接続しないでください）
13. エンジン部をビニール袋などに包み、子供の手の届かないホコリの少ない乾燥した場所に保管してください。

8. 故障対策

8-1. 故障診断表

重要
❍ 補用品や消耗品は必ず純正部品または指定品を使用してください。 純正または指定以外の部品を使用すると故障の原因となる場合があります。

故障内容	故障診断	原因	対策
エンジンが始動しない		燃料が入っていない ストップスイッチが停止位置 燃料の吸い込みすぎ 電気的障害 キャブレタ不良、内部固着 エンジン内部の故障	燃料補給 (9 ページ) 始動位置にする (11 ページ) 整備後に始動操作 販売店へ依頼 販売店へ依頼 販売店へ依頼
エンジンが始動しにくい、また回転が変動する	プライマリポンプ内に燃料が吸い上がる	燃料の変質 キャブレタ不良	新しい燃料に交換 販売店へ依頼
	プライマリポンプ内に燃料が吸い上がらない	燃料フィルタの目詰まり 燃料系統の目詰まり キャブレタ内部の固着	清掃か交換 (17 ページ) 販売店へ依頼 販売店へ依頼
	スパークプラグが汚れている、または濡れている	燃料の変質 電極の隙間が正しくない カーボンが付着している 電気的障害	新しい燃料に交換 調整 (16 ページ) 清掃 (16 ページ) 販売店へ依頼
エンジンは始動するが加速できない		エアフィルタの汚れ 燃料フィルタの汚れ 燃料通路の詰まり キャブレタ調整不良 排気口・マフラ出口が詰まっている	清掃か交換 (15 ページ) 清掃か交換 (17 ページ) 販売店へ依頼 調整 (18 ページ) 清掃 (18 ページ)
エンジンが停止する		キャブレタ調整不良 電気的障害	調整 (18 ページ) 販売店へ依頼
エンジンが停止しない		ストップスイッチ不良	応急停止後、販売店へ (12 ページ)
アイドリング状態でロータが回転する		キャブレタ調整不良 クラッチバネ破損	調整 (18 ページ) 販売店へ依頼

＊ 表中に記載されていない故障など、ご不明な点はお買い求めの販売店にご相談ください。

8-2. 製品の廃棄

❍ 製品や部品を廃棄するときは、お買い求めの販売店に相談するか、自治体の指導に従ってください。

9. 仕様

型式名		TC210
項目	単位	
質量		
ロータ、燃料を除く	kg	8.5
容量		
燃料タンク	L	0.5
ギヤケース		
歯車減速比		42:1
潤滑剤		純正グリース
ロータ		10 枚刃
外形寸法（ロータ除く）		
長さ×幅×高さ	cm	118 × 33.5 × 93.5
エンジン		空冷２サイクル単シリンダ
排気量	mL	21.2
最大エンジン回転数	r/min	11,000
アイドリング回転数	r/min	3,000
キャブレタ形式		ダイヤフラム式
点火方式		フライホイールマグネト電子点火方式
スパークプラグ		NGK BPM8Y
始動方式		リコイルスタータ
動力伝達方式		自動遠心クラッチ
燃料混合比		[レギュラーガソリン：２サイクルエンジンオイル] ＝ [50:1] オイルは ＪＡＳＯ 性能分類 ＦＣ または ＦＤ

※ この仕様は予告なしに変更することがあります。

メ　モ

メ　モ

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6181

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-020　22 0
X750 408-390 0　　1111G 0619 ES

(C) 2011 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。